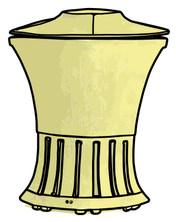

精製容器

青谷上寺地遺跡から出土した高杯・壺・椀などの木製容器には、現代の木工芸品にも見劣りしない、優美で精緻な製品があります。木製容器の研究では、これらを「精製容器」と呼んで、日用雑器と考えられる桶等の「粗製容器」と区別します。

精製容器には壺、椀、高杯、桶形容器などがあり、いずれの製品も秀麗な仕上がりとなるよう、材質、形、色、細部の仕上げなど、様々な点において工夫がなされています。

材質は、ヤマグワやケヤキなど、精緻な加工が可能で木目の美しい木が多用されます。造形も、花弁高杯に施された花弁状の浮き彫りや、桶形容器の大きくくびれた胴部や脚部の透かしといった立体的でシンメトリーな造形に仕上げられています。中には花弁高杯や椀形容器のように、片側のみ耳や把手を付加することで、より装飾的効果を高めた製品もあります。彩色は、器全体に赤色顔料などで着色するもののほか、台付壺や曲物の中には、黒漆を塗った後に赤漆で文様を描いたものがあります。花弁状の浮き彫りや透かしといった細部の造形や丁寧な仕上げからは、高度な木工技術をもつ工人集団と鋭利な鉄製加工具の存在を窺うことができます。

こうした精製容器は、青谷上寺地遺跡を治める有力者の権威の象徴であったり、儀礼など特別な場面で使われたものではないかと思われます。また、花弁高杯が山陰のみならず、北陸や北部九州から出土しているように、他地域との交易品として作られたものがあったと考えられます。日本海沿岸地域では、「青谷ブランド」としてその名を馳せていたことでしょう。

花弁文様の高杯
（クワ科クワ属製）

花弁文様をもつ高杯の
杯部と脚部
（別個体、ヤマグワ製）

蓋（クワ科クワ属製）

漆塗の壺（バラ科サクラ属製）

台付の壺
（クワ科クワ属製）

把手付き椀形容器
（イヌガヤ製）

桶形容器（ヤマグワ製）

桶形容器（ヤマグワ製）

曲物の脚台
（モクレン属）

脚台をもつ杯形容器
（ヤマグワ製）